

校 園 名： 広島大学附属幼稚園

所在地：〒739-0045 東広島市鏡山北333-2

電話番号：082-424-6190

記載日：2016年 5月20日 記載者：中邑 恵子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

### 「森の幼稚園」

＜教育理念＞

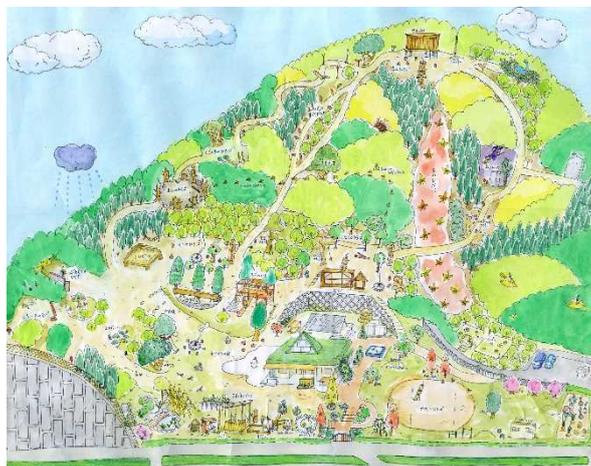
- 大きな森にいだかれて 自然と一緒に遊ぼう
- あったか仲間にもまれて みんなで一緒に遊ぼう

＜教育目標＞

- 豊かな自然や友だちとかかわりながら 一人一人がその子らしさを発揮し 共に育ちあう生活を通して 心豊かにたくましく生きる力を育む

＜めざす子ども像＞

- 自分のしたいことに夢中になって取り組む、自分が大好きな子ども
- 友だちと心を通わせて遊びや生活を生み出す、友だちが大好きな子ども
- 森でセンス・オブ・ワンダーを働かせながら生き生きと遊ぶ、自然が大好きな子ども



森の幼稚園 遊び場マップ



貴校の卒業生の活躍状況について：

活躍状況についての追跡調査は行っていない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査等は、特に行っていない。

しかし、公立や教育委員会から就任した副園長が、各市町の教育委員会へ戻られたり大学で教鞭をとったりなどの情報は入ってきている。

また、離任者が当園の研究会等に参加する機会が多いので、その際に直接情報を得ている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

## <大学との連携>

### 大学生の教育実習

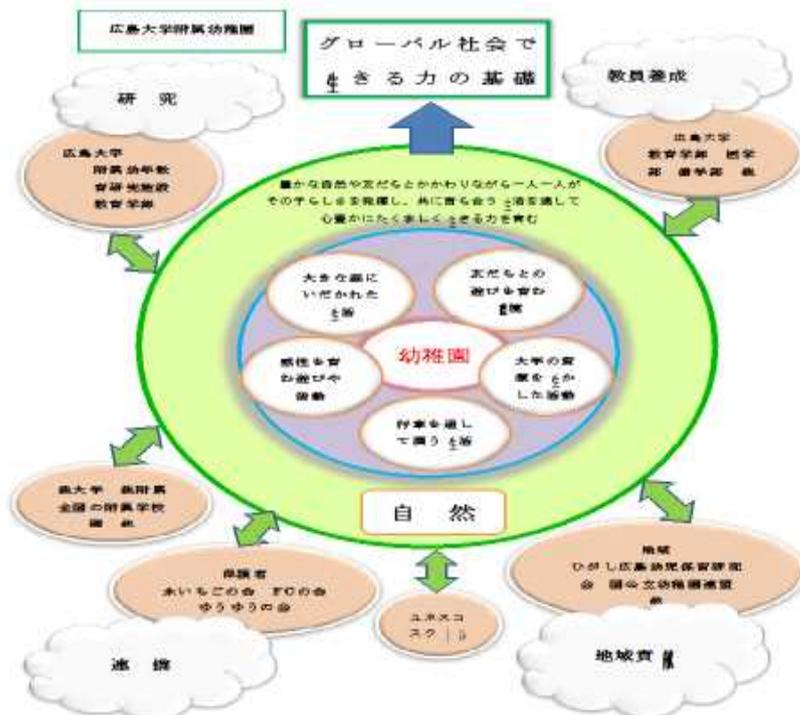
○教育学部及び歯学部・口腔健康科学科・医歯薬保健学科看護学専攻の学生等が本園で実習を行い、大学で習得してきた教育理論を深めるとともに、教育技術、実践的指導力の習熟を図り、教育者としての精神と資質向上を目的として実施している。

### 学部・附属学校共同研究

○附属学校園は、教育・保育に関する研究に協力し、大学・学部の目標・計画に従い、学生の教育実習の実施を行うことが目的である。

本園は、特に幼年研究施設附属園として創立された経緯から、日常的に幼研院生による観察や調査研究が行われている。

近年は、幼研との研究だけでなく広く他学部との研究も進め、よりグローバル化につながる研究を目指している。



## <地域・公立学校園との連携>

### ユネスコスクールとしてのプログラム構築

○本園はユネスコスクールに登録申請中である。

また、ユネスコスクール及びE S Dの視点での本園と共通課題をもち研究を進めている東広島市内の公立小学校と連携し、幼児と小学生の交流や教員の校内研修、行事への参加等を行い、幼小接続・幼小連携に向けたプログラムの構築に取り組んでいる。



### 情報の共有化・公開

○本園のこれまでの研究成果としての「遊びのデータベース」を地域の幼稚園・保育園等でも広く活用できるように、情報を刊行するなどして公開する。

## <保護者との連携>

### 親子で育つ幼稚園

○保護者も園児も教師も「ともに育つ幼稚園」をモットーに積極的な保護者活動を展開している。保護者会や父親の会の活動も盛んであり、園の行事に加え、園庭や森に設置される大型遊具の製作等も行っている。これらの園児の活動を支える保護者の活動が高く評価され、文部科学省・全国国立大学附属学校PTA連合会・ソニー教育財団等からも表彰されている。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○ひがし広島幼児保育研究会（東広島市内の幼稚園・認定こども園等20園・広島大学附属幼年教育研究施設）の事務局として、地域の幼児教育・保育のまとめ役としての役割を果たしている。本園を主会場として年間2回程度の合同研究会を開催している。

特に、本園の特長でもある自然を活用した保育に関しては、情報提供や視察を受ける等、センター的な役割も担っている。



附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

○本園は、園庭と裏山がつながり、あるがままの自然を満喫することのできる恵まれた環境に立地している。この恵まれた自然環境と子どものかかわりを見つめなおすことが、現代社会の諸問題の解決に貢献するものと考え、教育目標である「心豊かにたくましく生きる力」の達成に向けて取り組んでいる。

子ども達が一日を森で過ごす「森の日」を中心にした実践・研究、毎年開催する研究大会やフォーラムへは、全国各地や外国からの参加者や見学者を多く受け入れている。

今後は、地域の公立の園や小学校との連携も図りつつ、ESDの視点も取り入れ求められている21世紀型能力の育成のための幼児教育の在り方や小学校との接続カリキュラム等、モデルとなる研究を進めていく。

これらのことから、附属園としての意義及び必要性を示すことができると考える。